

## 屋久島の樹林

### 照葉樹林帯 (0-1,000 m)

屋久島の山地は、前岳という外側の山々と、奥岳という内側の山々で構成されています。集落に近い前岳山群は標高約 800 メートルに達し、その大部分は日本最大の照葉樹林で覆われています。光沢があり光を反射する葉が特徴の常緑広葉樹は、安房川、田代、および西部林道沿岸など、海岸沿いの温帯地域に生育しています。

標高の低い林には、ブナ、アカガシ（レッドオーク）、ツブラジイ、およびマテバジイなどや、またクスノキ科の樹木であるクスノキやタブノキ、そして日本で最も丈夫な硬材であるマンサク科のイスノキなどがあります。沿岸部には常緑のウバメガシ (*Quercus phillyreoides*) やマルバニッケイ (*Cinnamomum daphnoides*) が生育しています。

### スギ樹林帯 (800-1,800 m)

海拔 800 から 1,200 メートル付近のスギ樹林帯には、照葉樹と杉（スギ）が混在して生育しています。モミ、トウヒ、ヒノキなどの針葉樹や、常緑広葉樹のトヤマグルマ、落葉広葉樹のハリギリ、そしてシャラノキなどが寒冷な気候の標高の高い場所に生育しています。ハリギリやシャラノキなどは、大木が倒れた日当たりの良い場所に育成しています。ヤクシマホシクサ、ヤクシマキンポウゲ、および屋久島のナス科の植物といった自生植物は、標高 1,600 メートルから上方の冷温帯に見られます。

### 竹草原帯 (1,800-2,000 m)

風が強く寒いため、杉や背の高い植物には不向きなこの竹草原帯では、笹のほか、ヤクシマシャクナゲ、ハイノキ、アセビなどが群生が主役になっています。また、笹の間には、ヤクシマアザミ、シャクナンガンピ、ホツツジ属、またその他たくさんの自生植物も生えています。五月と六月には、ピンクや白のベル型をしたヤクシマシャクナゲがこのエリアをちりばめます。

## 樹林を見るには

### 西部林道

全長約 20 キロメートルの西部林道は、亜熱帯の植物から山頂で見つかる種まで、さまざまな植物が生育するエリアを通り抜ける車両通行が可能な道路です。屋久島の植生垂直分布は、島の 10,747 ヘクタールがユネスコの世界自然遺産に指定される要因となりました。そこにはガジュマルやアコウ (*Ficus superba var. japonica*) などの巨木があります。西部林道は世界遺産エリアの中では唯一車でアクセス可能な場所です。沿道には常緑樹が並び、「緑のトンネル」と呼ばれる部分は、枝葉によって作り出される天蓋のような効果からその名がつけました。秋には、緑の葉と亜熱帯の植物が混じり合い、印象的な色の景色を生み出します。

行き方：車で安房港から栗生入口まで約 69 分、宮之浦港から永田入口まで約 45 分、または屋久島空港から永田入口まで約 61 分

#### ヤクスギランド

この 270 ヘクタールの樹森は標高約 1,000 メートルに位置しています。それは、澄んだ自然のままの小川だけでなく、ツガやモミやヤクスギ、独特な名前を持つスギ、そして苔など、標高と共に変化する植物の風景です。長さの異なる五つの登山コース（30 分、50 分、80 分、150 分、210 分）が、さまざまなレベルの登山者のために用意されています。

行き方：車で安房港から約 32 分、宮之浦港から約 57 分、または屋久島空港から約 42 分